条幅研究【かな部】選評：内藤詩羊

先日、日本画のワークショップを受講しました。日本画の知識もないし、絵心もない…全くの初心者ですが、色鮮やかな岩絵具や胡粉等の説明を聞き、梅の花丸紋を絵馬に描きます。あらかじめ図案がトレースされているので、岩絵具を使った高級なぬり絵です。新たな学びはとても新鮮で、あっという間に時間が経ち、綺麗な絵馬が仕上がりました。

書に対しても、新鮮味を失ってはいけないと改めて感じました。マンネリ化してしまうと散らし方も用字もいつも同じで、書いていても退屈に感じます。気持ちを新たに取り組んでいきたいものです。

かな部　次号課題

A　君がため惜しからざりし命さへ　長くもがなと思ひけるかな　（藤原義孝）

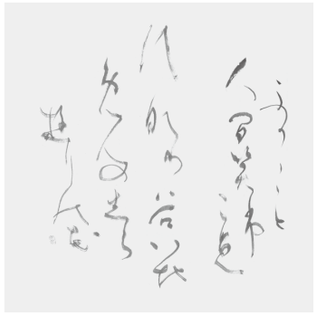
・君に逢うためには、命は縮めてもいい、惜しくはないと思っていた命までも、逢って帰った今朝は、また逢うために、長くあるようにと思うようになりました。

B　風は身に添ふべくなりぬ夜の秋　（西坂三穂子）

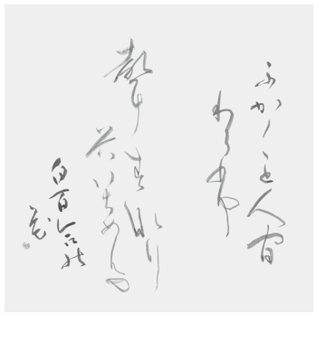
・夏の果ての頃の夜、開かれた窓から入る風に、秋の爽やかさを感じるようになった。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉

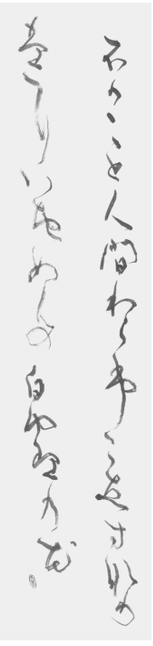


能勢玄海　字間や字中の空間の作り方が上手く、明るい作になった。

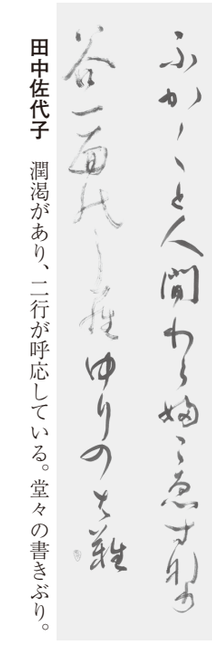


小塩美映　余白の美。文字の大小に工夫あり。

小根田暁雲　墨継ぎが効果的。素直な書きぶりに好感がもてる。

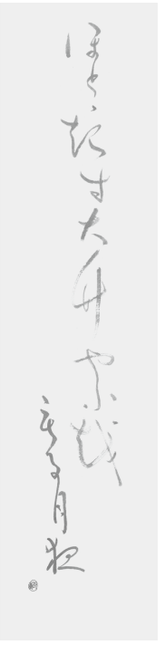


鈴木秀美　巧みな筆づかい。特に渇筆の見せ場が素晴らしい。



田中佐代子　潤渇があり、二行が呼応している。堂々の書きぶり。

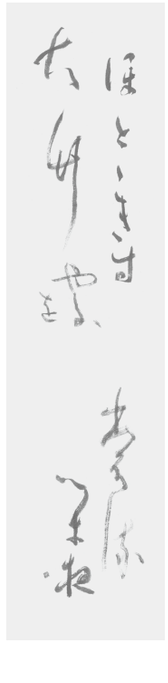
位ノ花玲香　淡墨で流れが美しい。二行目の配置も良い。



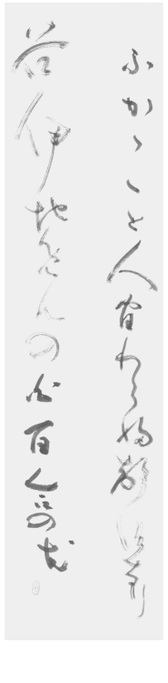
穴田小糸　重厚な線で力強い。大字かなの魅力を感じる。

●出品資格：五段以上。●用紙サイズは半切縦か角半。
●A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
●条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。（作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入）

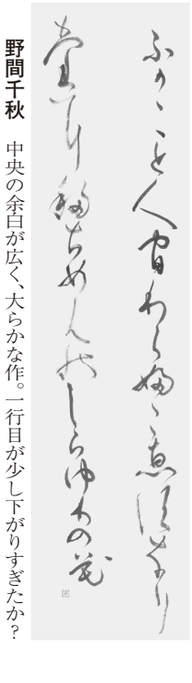
〈修士以下の部〉



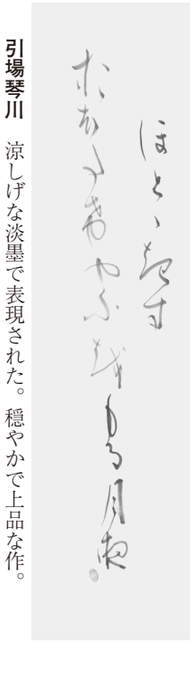
川嶋冷子　趣のある線質で、縦への流れに勢いあり。



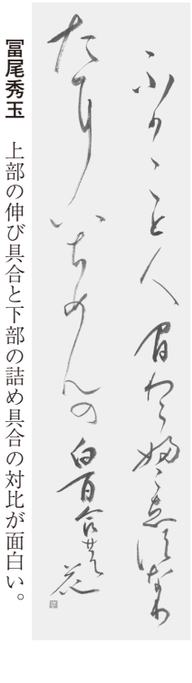
西村希美　文字の大小に合った線の太細、字間の取り方が見事。



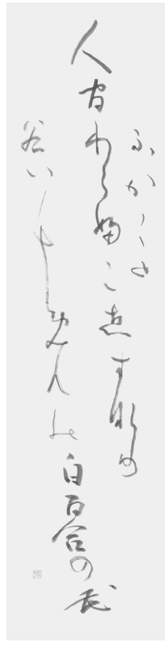
野間千秋　中央の余白が広く、大らかな作。一行目が少し下がりすぎたか？



引場琴川　涼しげな淡墨で表現された。穏やかで上品な作。

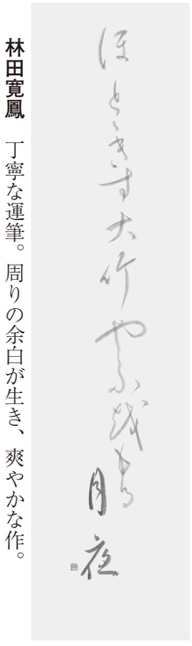


冨尾秀玉　上部の伸び具合と下部の詰め具合の対比が面白い。

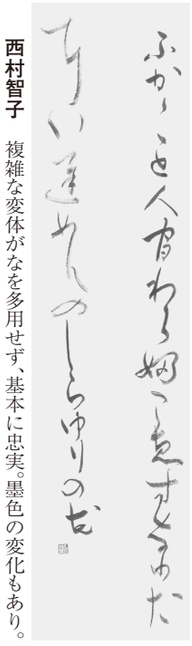


石田孝子　構成がよく、素朴な雰囲気に魅了される。

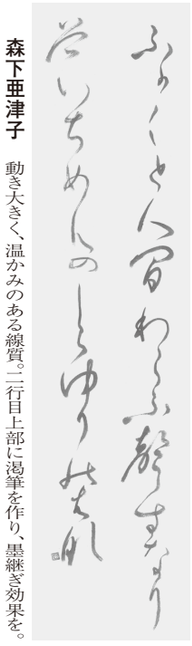
松本朋子　読みやすい用字で伸びやか。柔らかな墨色も良い。「能（の）」一考。



林田寛鳳　丁寧な運筆。周りの余白が生き、爽やかな作。



西村智子　複雑な変体がなを多用せず、基本に忠実。墨色の変化もあり。



森下亜津子　動き大きく、温かみのある線質。二行目上部に渇筆を作り、墨継ぎ効果を。